

一般社団法人 日本フルードパワー工業会

本部：〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8号 機械振興会館内
TEL. 03 (3433) 5391 FAX. 03 (3434) 3354
西日本支部：〒566-8585 大阪府摂津市西一津屋1-1 ダイキン工業(株) 淀川製作所
TEL. 06 (6349) 0241 FAX. 06 (6349) 9865 油機事業部内

第21回政策委員会開催

平成26年12月16日(火) 12:00~14:00の間、第21回政策委員会を開催し、平成27年度の事業計画と収支予算(案)等について審議しました。

I 公益事業

1. 需要対策事業

フルードパワー産業の市場動向を把握し産業界の高度化等に貢献するため、以下の事業を実施しその成果を当会のHPへ掲載するとともに、会員企業はもとよりシンクタンク・金融機関等に広く提供する。

①総需要委員会のもとで平成28年・年度及び平成

31年・年度の油空圧機器の需要見通しを作成するとともに、必要に応じて27年・年度の見直し作業を行い関係者に資料配布する。

②油圧機器需要部門別出荷区分について再検討する。なお引き続き、フルードパワー機器の受注・生産・需要部門別出荷・輸出入等需要動向に関する調査を実施し、関係者に配布する。

③需要業界等関連団体の情報や統計資料を迅速に収集し関係者に資料配布するとともに、関連団体の関係者を招いて意見交換する。

④その他需要対策に必要な事業を実施する。

2. 国際交流事業

新興国を含めた市場のグローバル化の一層の進展

主要目次

ISSN. 1345-2371

Table with 2 columns: Item Name and Page Number. Includes items like '第21回政策委員会開催', '技術調査事業', '国際交流事業', etc.

(一社) 日本フルードパワー工業会
URL http://www.jfpa.biz/

により、TPPを始めとする様々な経済連携締結の動きなどが活発化し、また、会員企業の海外展開も加速をしてきており、各国の市場動向の把握はより重要性を増してきている。

このため「国際委員会」を定期的に開催する他、必要に応じて臨時開催するなど柔軟な体制で、以下の事業を実施する。また、その成果を会員企業はもとより、当会のHPへの掲載やシンクタンク・金融機関等に広く提供し、産業界の高度化等に寄与する。

①国際交流を促進するため国際会議等に参加するとともに、海外見本市への共同出展及び視察団の派遣について準備する。

イ) 2015年4月にドイツのハノーバーに視察団を派遣するとともに、同時に開催される「国際空圧サミット」や「国際統計委員会」に参加する。併せて、帰国後報告会を開催する。

ロ) NFPAカンファレンス等の情報を、JETROと協力して収集し情報提供する。

ハ) PTC-ASIA2015、MDA-INDIA 2015等へのカタログ展示を中心とした共同出展への参加や視察団派遣の可否について調査・検討し、必要に応じて事業を実施する。

②TPP・EPA・FTA等の締結交渉等行われており、METIとも連携して会員企業への適切な情報提供を行うとともに必要に応じ調査を行う。

③海外各国の生きた現地事情を得るために、経済産業省等の海外勤務帰国者を招き講演会を随時開催する。

④新興諸国の市場動向等について情報収集や海外市場に係わる統計データ類を整備するとともに各国の関連団体との交流を推進する。

⑤会員企業の海外進出状況調査を行うとともに安全保障貿易管理や公正貿易ルール等について、在外公館等と連携して情報や資料の収集を行い迅速に提供する。また、必要に応じ講演会を開催する。

⑥その他海外からの問い合わせ等国際交流に必要な事業を実施する。

### 3. 標準化事業

関連産業界のグローバル調達への対応や設計の簡素化・各産業界の合理化・高度化に貢献するため、大学関係有識者の協力を得て、ISOやJIS、団体規格の新たな制定・改廃等以下の事業を実施する。

#### 1) ISO対策事業

①ISO規格について検討し、必要に応じ制定若しくは改廃するとともに、我が国提案のISO規格化への推進を図る

(新規)

ISO/NWIP Pneumatic fluid power - Test method for measuring acoustic emission pressure level of exhaust silencers に対抗する日本案の提出 (継続)

ISO/DIS 10761-1: 油圧システムと機器から発生する圧力脈動レベルの測定法

第1部: ポンプの吐出流量脈動と内部インピーダンスの測定方法

②ISO/TC131 沖縄国際会議 (H27. 5. 18~22) を開催する

③ISO国際会議へ積極的に参加をする

イ) ISO/TC131/関連の国際会議への委員派遣 (H27. 10 欧州)

ロ) ISO/TC118/SC3等の国際会議への委員派遣

④ISO/TC131/SC7 (密封装置: 各国との連絡・会議の案内・翻訳業務等) の幹事国業務を行う

#### 2) 規格事業

日本工業規格、団体規格について審議し、必要に応じ制定若しくは改廃する。

① 日本工業規格

(新規)

イ) JIS B \*\*\*\* 空気圧用継手ポート及び継手端部 (H27. 4 から制定作業)

ロ) JIS B 8395 油圧・空気圧システム及び機器—シリンダー往復用ワイパリングのハウジング寸法及び許容差 (H27. 8 から改正作業)

(継続)

イ) JIS B 8373 空気圧用電磁弁 (H25. 8 から改正作業)

ロ) JIS B 9932 油圧—液体用自動粒子計数器的校正方法 (H25. 12 から改正作業)

ハ) JIS B 8366-5 油圧・空気圧システム及び機器—シリンダー構成要素及び識別記号—第5部: 識別記号 (H26. 4 から改正作業)

ニ) JIS B 8390 空気圧—圧縮性流体用機器—流量特性の試験方法 (H26. 8 から改正作業)

ホ) JIS B 8659-2 油圧—電気操作形油圧制御弁—第2部: 3方向流量制御弁試験方法 (H26. 12 から改正作業)

② 団体 (工業会) 規格

(新規)

イ) JFPS \*\*\*\* ゴムシールの保管指針 (制定)

ロ) JFPS \*\*\*\* エアドライヤの選定指針 (制定)

ハ) JFPS \*\*\*\* 空気圧機器及びシステムの汚染管理指針 (制定)

(継続)

イ) JFPS 1017 シール用語 (改正)

#### 4. 技術調査事業

フルードパワー産業及び関連産業の高度化・合理化・省エネ化等に貢献するため、新技術情報や新製品情報の提供を行う等、以下の事業を油圧部会及び空気圧部会並びに水圧部会で実施するとともに、必要に応じ合同部会あるいは各部会傘下の分科会若しくはWGを設け活動する。

また、産学連携事業を積極的に推進・実施するため、(一社)日本フルードパワーシステム学会(以下学会)と連携した「産学連携懇談会」の活動を通じた人材教育や共同事業等を推進する。また、大学の講座に事務局専門家を講師として派遣するとともに、学会の基盤を強化するための支援を行う。

##### 1) 油圧部会及び空気圧部会

産学連携懇談会を開催して今後の産学連携のあり方について検討し、アクションプランを取りまとめる。

- ①フルードパワー業界の活性化のため、学会と連携して技術講演会を開催する。
- ②若手技術者懇談会(油圧部門、空気圧部門)をより充実を図り開催する。
- ③2012年版「実用油圧ポケットブック」及び「実用空気圧ポケットブック」の普及促進を図る。
- ④ROHS規制やREACH規制等のグリーン調達に関する情報収集と提供を迅速に行う。
- ⑤フルードパワー業界の知的財産の保護に関する事業を推進する。
- ⑥中央職業能力開発協会からの要請に応じて、油空圧機器部門の中央技能検定委員(特急・1級・2級)の推薦及び受験者への情報提供を行う。
- ⑦その他油空圧技術に関する諸問題に対応する。

##### 2) 水圧部会

- ①「St-ADS実証小委員会(仮称)」を設置し、公益財団法人日本食肉生産技術開発センターと協力して、St-ADS事業プロジェクトを推進する。(産学連携事業)
- ②平成28年度に水圧シンポジウムを開催する企画を検討する。(産学連携事業)
- ③水圧技術の標準化のための基礎実験及び標準化作業に着手する。(受託した場合)

(ISOに提案する段階で、標準化事業に移行させる)(産学連携事業)

- ④ADS技術の更なる普及促進を図るため、需要業界や関連業界が開催する見本市に積極的に参加するとともにHP及びブログの運用を拡充強化する。

⑤内外の水圧技術(知的財産権問題も含む。)の動向や情報収集等を行うとともに必要に応じ国際会議にも参加する。

⑥その他水圧技術に関する諸問題に対応する。

#### 5. 広報・PR事業

電子メールやHPを活用し、会員企業に適切な情報を迅速に提供する他、フルードパワー産業及び関連産業の高度化等に貢献するため、工業会の活動状況等について会員企業はもとよりマスコミ・シンクタンク・金融機関等にも広く提供する等、以下の事業を実施する。

①会員及び学会・関連関係者のために、HPの充実を図る。

②平成28年にJFPA創立60周年を迎えることから、記念特集号等を企画し準備を進める。

③フルードパワー産業を広く紹介するために、小冊子「フルードパワーの世界」の追補版をHP等活用して積極開示し、また、高専・大学等における副教材としての活用等を提案していく。必要に応じセミナーの開催を検討する。

④月初に取りまとめる「月報フルードパワー」を、会員企業はもとより関係機関等に電子配信するとともにHPに掲載し広く広報・PRに努める。

⑤機関誌「フルードパワー」を四半期毎に発刊し、会員企業はもとより関係機関等にも広く配布するとともにHPに掲載し広く広報・PRに努める。

⑥その他広報・PR活動に関する事業を推進するとともに当会が開催する講演会等について積極的な広報・PR活動を行う。

#### II その他事業

##### 6. 中小企業関連事業

グローバル化の進展に伴い中小企業を取り巻く経済環境は激変しており、中小企業業界においても事業の海外展開が大きな課題となっている。

また、経営者の世代交代も進んできており、円滑な移行も喫緊の課題となってきた。このため「中小企業委員会」と傘下の「中小企業WG」「次世代経営を考える会」で事業の機動的な運営を行い中小企業業界の更なる振興・発展を図る。

①「次世代経営を考える会」で、異業種の工業会の所謂「若手の会」との連携等今後の活動方針を決め、必要に応じて研修・視察を行う。

②中小企業委員会を開催するとともに、需要業界動向等や中小企業施策等の動向について経済産業省等と連携して迅速に情報を収集し中小企業委員会のメンバーに提供する。さらに関連する部会と合同で講演会を開催する。

- ③中小企業委員会の下に設置したWGで、中小企業特有の共通した課題を抽出し、解決策検討等、中小企業委員会の円滑な運営を図るための企画調整を行うとともに、必要に応じて研修・視察を行う。
- ④中小企業を支える福利厚生事業の「共済制度」の参加企業拡充を図る。
- ⑤消費税転嫁対策特別措置法に基づく適切な対策を引き続き実施する。
- ⑥その他中小企業の振興に必要な事業を実施する。

#### 7. 振興対策等その他事業

激変する経済環境に的確に対応するため、需要業界の動向やPLや標準化問題等について意見交換を行う。また、年始会・総会・支部総会等を通じ、学会等業界関係者との交流を深め、業界の振興・発展を図る。

##### 1) 振興対策事業

- ①第28回JIMTOF2016の準備を、工作機械関連団体協議会を通じて行う。
- ②産機・建機合同部会及びシンダ部会、空気圧本部会を開催し、業界動向等について意見交換を行うとともに、競争と協調の下秩序ある業界体制の確立を図る。
- ③地域経済の環境変化に対応するため、各地区部会や支部会を適宜開催するとともに、必要に応じ本部委員も出席して意見交換を行う。
- ④その他振興対策に必要な事業を実施する。

##### 2) PL対策事業

- ①海外PL及び国内CGL(国内PL・作業・業務遂行・施設)のリスク：COMPREHENSIVE GENERAL LIABILITY)からなる団体総合保険制度の健全な運営を図る。
- ②本保険制度の基盤を強化するため、ワールドインシュアランスグループ等と連携して参加会員企業の拡大を図るためPR活動を強化する。
- ③昨年度から導入可能性を検討している製造業者E&O(経済損失カバー)保険制度について、引き続き検討する。
- ④国内PL情報や海外PL情報及び様々な企業リスクを迅速に収集し会員企業に提供する。
- イ) ケーススタディを中心としたPL・企業リスク対策等の講演会を開催する。
- ロ) 三井住友海上火災保険(株)提供のPLニュースを電子配信する。
- ハ) ワールドインシュアランスグループ提供の情報を電子配信する。
- ニ) 東京海上日動リスクコンサルティング(株)提供の海外安全トピックスをHPに掲載する

ホ) その他のPL関連情報の収集と提供等PL対策に必要な事業を実施する。

#### 3) その他事業

- ①規格事業のうち公募によるJIS原案作成事業を実施する
- ②官公庁や関連団体等からの各種調査等の実施依頼と取りまとめ作業等を行う。
- ③年始会や総会後の懇談会・西日本支部総会を開催する。
- ④西日本支部活動を支援する。
- ⑤その他本会の目的を達成するために必要な事業を実施する。

### III. 予算策定時の会員状況

平成27年4月1日現在の会員数は、正会員62社、賛助会員55社である。

これをベースに平成27年度の収入予定額を算出すると1.1億円強となる。

次に上記事業を実施するため、事務局から以下の通り平成27年度収支予算(案)等を説明した。

「平成27年度の収支予算(案)については、収入は前年度予算比5.6百万円減の115百万円弱となるが、減少の大きな要因は見本市関係の事務取扱収入がなくなるためである。一方、支出については、前年度予算比3.7%減の114百万円弱まで圧縮し、約21万円の黒字化を図りました。また、退職給与引当金を2.3百万円強計上する必要があるため、2.1百万円強の赤字となりますが、次期繰り越し収支差額が、今後の経費節減努力により20百万円程見込まれることから、全体で黒字となる見込みです。」続いて第2号議案である「記念事業積立資産取扱規程」を一括説明し次回理事会へ上程したい旨図った。これに対し、北畠副会長から収支予算(案)について「方向性は良いが一層の節約に努め、次期繰越収支差額の上積みを図り、健全財務体制の確立を図ることが必要である。」また、「記念事業積立資産取扱規程(案)については、「健全な財務体質の中で行うことが重要である」との指摘があり、今後さらなる合理化に努めること等を条件に次回理事会へ上程することが承認された。次に第3号議案である「補助金申請の件」について説明し、次回理事会への上程が承認された。なお、本件については、本年度末までには状況がわかるため、状況により4月開催の理事会に予算(案)の修正を行う旨も併せて説明した。その他、需要見通しの上方修正の件、IFPEX2014の出展報告の件、ハノーバーメッセ視察団募集の件等を一括説明し、14:00に会議は終了した。

委員会開催・活動状況報告  
(詳細については各担当者にご照会下さい)

~~~~~  
国際交流事業  
~~~~~

国際委員・国際問題 WG 合同会議

日時 12月2日(火) 15:00 ~ 17:00

場所 機械振興会館 6-62 会議室

出席者 澤田委員長以下 12 名

事務局 藤原、堀江

議事

澤田委員長の挨拶に続き、平成 26 年度事業の進捗状況と今後の予定並びに平成 27 年度事業計画(案)について審議を行った。①9月17日(水) IFPEX2014 に於いての海外団体(台湾、トルコ)との交流・情報交換実施、②2015年4月にドイツ・ハノーバーで開催される「ハノーバーメッセ」と併催される「国際油空圧サミット」「国際統計委員会」参加への準備と視察団派遣の準備状況、③来年2月18日に開催予定の中小企業委員会との共催講演会事業について意見交換、④各社からの状況報告を行った。その後 経済産業省・産業機械課・前田様を講師に「最近の日米の経済関係」について講演会を開催した。

~~~~~  
標準化事業/ISO 対策事業  
~~~~~

ISO/TC131/SC4 (継手ホース) 分科会

日時 12月10日(水) 13:30 ~ 16:00

場所 機械振興会館 1-3 会議室

出席者 宮下主査以下 6 名

事務局 千葉

議事

前回議事録確認後、投票に掛かっている定期見直し ISO 12151:2009, DIS 15171-2 及び DIS 18869 について審議し、DIS 18869 はコメントあり、他の 2 件はコメントなしで賛成投票することにした。続いて、10月に開催された ISO ロンドン会議における SC4 の各 WG の報告を行った。ISO/TS 17165-2 を基にした工業会規格化については、現行の JHCA 規格と対比される形式の素案を作成して検討していくことにした。

次回開催: H27-3月11日(水) 機振会館 1-3 会議室

空気圧調質機器分科会

日時 12月15日(月) 13:30 ~ 16:00

場所 機械振興会館 1-5 会議室

出席者 小田主査以下 4 名

事務局 千葉

議事

前回議事録確認後、ISO/TC131/SC5/WG5 ロンドン会議に関連し、サイレンサーについてのコメントへの回答に会議内容が反映されていないことへの対応策を検討した。

サイレンサーに関連して、国内におけるラウンドロビテストの最初の実験データの検証を行った。

ISO 10094-1 及び-2 の JIS 化について規格協会への登録を考慮し、進め方について討議した。

次回開催: H27-2月20日(金) 機振会館 1-4 会議室

空気圧バルブ分会

日時 12月18日(木) 14:00 ~ 16:50

場所 機械振興会館 1-5 会議室

出席者 丸山主査以下 4 名

事務局 千葉

議事

前回議事録確認後、ISO/TC131 ロンドン会議における TC131/WG4 空気圧機器の信頼性評価で議題となったバルブの切替圧力の測定方法に関する報告があった。続いて定期見直しに掛かっている ISO11727 について審議した。最後に、最低作動圧力の測定方法の見直しについて、具体的な取り決め事項について検討した。

次回開催: H27-2月26日(木) 機振会館 1-5 会議室

~~~~~  
標準化事業/規格事業  
~~~~~

流量測定分科会

日時 12月5日(金) 13:30 ~ 16:30

場所 機械振興会館 1-3 会議室

出席者 妹尾主査以下 9 名

事務局 千葉

議事

前回議事録確認後、妹尾主査より、10月に開催された ISO/TC131/SC5/WG3 ロンドン会議について説明があった。

続いて、今年度8月にスタートとした ISO 6358-1 の JIS 原案について審議を継続した。

次回開催: H27-2月6日(金) 機振会館 5S-4 会議室

#### ポンプ・モータ分科会

日時 12月8日(月) 14:00～16:50

場所 機械振興会館6-61 会議室

出席者 馬場主査以下10名

事務局 千葉

#### 議事

現在ISOにおける新しい活動として取り上げられている”プロダクトプロパティ”及び”機械安全規格”についての最新情報を報告した。続いて、10月に開催されたISO/TC131 ロンドン国際会議における関連する会議の内容報告を行った。

分科会として今後取り組むテーマについて検討した。最後に、昨年度まで委員であった小曾戸氏から上海BAUMAからの最新情報及び小曾戸氏のこれまでの活動において考えたことについて報告があった。

次回開催：H27-3月 機械振興会館会議室

#### 油圧バルブ分科会

日時 12月11日(木) 14:00～16:50

場所 機械振興会館1-3 会議室

出席者 浦井主査以下11名

事務局 千葉

#### 議事

前回議事録確認後、10月に開催されたISO ロンドン会議における関連会議の報告を行った。続いて、平成25年度に制定したJIS B 8659-3の申出状況の説明及び現在改正作業を行っているJIS B 8659-3についての経済産業省のヒアリングについての説明を行った。次に、投票に掛かっているISO 10770-1:2009 定期見直しについて審議した。

最後に、平成26年度12月応募予定のJIS B 8659-2 3方向流量制御弁の試験方法について改訂翻訳作業に入った。前回に引き続き9.1.6から8.2.3.2までを審議した。

次回開催：H27-2月5日(木) 機振会館1-3 会議室

~~~~~

#### 技術調査事業

~~~~~

#### 技術委員会油圧部会若手技術者懇談会

日時 12月3日(水) 13:30～19:30

場所 機械振興会館B3-3 会議室

出席者 伊藤部会長以下14名

事務局 藤原、千葉、大橋

#### 議事

はじめに伊藤部会長から開会の挨拶と今回の懇談

会の主旨、進め方などについて説明があり、議事が進行された。

第1部は、協立機電(株)・技術顧問の落合正巳氏に「国内外の油圧技術の状況と若手技術者への期待」の演題で講演をお願いした。落合氏は長年にわたり日立建機(株)において建設機械用油圧機器、システムの研究・開発に携わって来られた油圧技術者であり、その豊富な体験談と最近の海外の研究動向などまで幅広い知見が披露された。特に、興味を抱いてこられた油圧機器やシステムの数々はまさに油圧の特徴や巧妙さを示すものであり参加者が聞き入っていた。最後に若手に対する期待が述べられ、約1時間の講演を終了した。

第2部は若手技術者発表討論会と称し、事前に提出してもらった論文をもとにしたプレゼンを行った。「IFPEX 参観記」をはじめ、「技術者としての抱負」、「油圧の今後に期待すること」、「業務体験談」など、幅広い視点で各自の意見が述べられた。発表時間は短時間ではあったがよく整理されており、それぞれに質疑応答もなされた。

またこれに先立ち、伊藤油圧部会長からご本人の経歴や興味深い体験談が披露された。

第3部の懇親会は、全員の参加を得て先輩、若手が親しく語りあい、親睦を深めることができた。

#### 技術委員会水圧部会

日時 12月4日(木) 14:00～17:00

場所 機械振興会館B3-7 会議室

出席者 宮川部会長以下9名

事務局 大橋

#### 議事

##### ① IFPEX2014 来場者調査結果のまとめ

出展各社による調査結果を整理した一覧表が提示され、各社から詳細説明を受けた。相互に質疑応答の後、市場マップへの反映と今後の活用について意見交換を行った。マップについては、ADS 市場全般から水道配管網圧力分野までの各圧力域に区分された事例を再調査し、不明確な分は除いた数値に改め、対象製品などもわかる範囲で追跡調査した上で製品種類名などを記入することとした。

##### ② 今後の広報活動について

水圧ブログについては、各社毎のIFPEX 出展内容の開示を開始し3社目に入っている。当面これを継続し、その後の掲載内容については意見を募る。また、工業会ホームページへの反映、他の広告媒体への展開、来年度の見本市への出展などについても継続して検討していく。

③ その他

事務局から、工業会が60周年を迎える2016年に機関誌の記念号を発刊等の計画が進行中であり、技術編の中に水圧分野に関する総論、各論の執筆が依頼されるとの報告があった。

次回開催：平成27年2月5日（木）予定

技術委員会空気圧部会第506回特許分科会

日時 12月12日（金）13：00～17：00

場所 機械振興会館6-61会議室

出席者 赤松幹事以下5名

事務局 吉田

議事

はじめに前回議事録及び配付資料の確認を行った。公報の検討と無効審判請求について1件については今回で審議を終了することとした。1件については見解書の作成中との報告があった。2件については新たな証拠資料の提出はなかったが、引き続き調査を継続することとした。新たに1件の審議を開始することとした。

次回開催：1月23日（金）機振会館6-61

~~~~~

広報・PR事業

~~~~~

編集委員会第107回WG

日時 12月2日（火）14：00～17：00

場所 機械振興会館B3-7会議室

出席者 前畑主査以下9名

事務局 大橋

議事

① VOL. 30, NO. 2 (60周年記念) 技術編企画検討

第87回編集委員会での審議・決定に基づき、技術編の構成や執筆者について具体的な検討を行った。事前に、50周年記念号以降の技術関連記事一覧について60周年記念号で取り上げるべき記事を各委員に抽出してもらっているので、その結果も踏まえて議論し記事構成案を次のように固めた。

・記事構成と目次は、継続性を重視して50周年号を踏襲することとし、以降の新しい市場分野、介護医療、防災などを追加する

・総論と本編で構成し、総論は大学の先生及び機器メーカーの視点で書いていただく。また、本編は機器・システム毎に関連する会員企業に書いていただく。それぞれ内容は「この10年の技術動向」「将来への夢と展望」とする

・今後の進め方として、油圧/空気圧/水圧の3作業分科会体制で3月までに執筆依頼社及び執筆候補者を選定し、4月の編集委員会に提案する

② VOL. 29, NO. 1～NO. 2 (新年号～春号) 進捗報告

年間企画表により、新年号の進捗報告を行い、春号記事候補の充足状況を確認した。その後、各委員から記事提案の説明を受けた。未定だった春号の「身近なフルードパワー」記事は、数点の提案の中から絞り込んだ。

③ その他

事務局から、執筆要領書の記事文字数に関して、補足説明を加える提案がなされ、提案通り改定することとなった。

次回開催：平成27年3月3日（火）予定

~~~~~

今後の主要行事予定

~~~~~

\*平成27年

☆1月16日（金）年始会及び第73回理事会

（場所）東京プリンスホテル

☆2月12日（木）技術講演会

（場所）機振会館

☆2月18日（水）第4回中小企業委員会

（場所）機振会館

☆4月17日（金）第74回理事会

（場所）東京プリンスホテル

☆5月14日（木）平成27年度定時総会

（場所）東京プリンスホテル

☆5月14日（木）総会後の懇親会

（場所）東京プリンスホテル

☆5月15日（金）懇親ゴルフ会

（場所）程ヶ谷カントリー倶楽部

9:12 OUT・IN各3組

~~~~~

12月に開催された当会各委員会に出席された皆様は以下の通りです。（敬称略）

~~~~~

政策委員会

開催日 12月16日（火）

出席者

委員長 梶本一典（CKD）

委員 白井政夫（KYB）

〃 田中 治（油研工業）

- 〃 十萬幹雄 (神威産業)
- 〃 北島多門 (SMC)
- 〃 澤田敬之 (タイヨーインタナショナル)
- 〃 古川清二 (税理士法人ビランツ)

(国際交流事業)

国際委員会・国際問題 WG 合同会議

開催日 12月2日 (火)

出席者

- 委員長 澤田敬之 (タイヨーインタナショナル)
- 委員 北島多門 (SMC)
- 〃 篠根邦夫 (堀内機械)
- 〃 新開 諭 (甲南電機)
- 〃 市村理明 (CKD)
- 〃 松島佳久 (不二越)
- 〃 澤田啓支朗 (タイヨーインタナショナル)
- 〃 風間英朗 (日本アキュムレータ)
- 〃 西本 茂 (廣瀬バルブ工業)
- 〃 森吉正孝 (油研工業)
- 〃 中嶋 匡 (経済産業省)
- 代理 西田昌弘 (三菱電線工業)

(標準化事業/ISO 対策事業)

ISO/TC131/SC4 (継手ホース) 分科会

開催日 12月10日 (水)

出席者

- 主査 宮下 暁 (横浜ゴム)
- 委員 後藤邦彦 (日東工器)
- 〃 中林邦明 (ブリヂストンフローテック)
- 〃 湯本英朋 (イハラサイエンス)
- 〃 小島 博 (十川ゴム)
- 〃 小島研二 (日本ホース金具工業会)

空気圧調質機器分科会

開催日 12月15日 (月)

出席者

- 主査 小田敏裕 (甲南電機)
- 委員 三村 岳 (SMC)
- 〃 郡司 浩 (コガネイ)
- 〃 田中尚志 (CKD)
- 〃 高橋隆通 (甲南電機)

空気圧バルブ分科会

開催日 12月18日 (木)

出席者

- 主査 丸山哲郎 (SMC)
- 委員 河野喜之 (甲南電機)

- 〃 夏目清辰 (CKD)
- 〃 齋藤茂明 (アズビル TACO)

(標準化事業/規格事業)

流量測定分科会

開催日 12月5日 (金)

出席者

- 主査 妹尾 満 (SMC)
- 委員 香川利春 (東京工業大学)
- 〃 眞田一志 (横浜国立大学)
- 〃 張 護平 (SMC)
- 〃 長井敏和 (CKD)
- 〃 齊藤 悠 (コガネイ)
- 〃 沖山健二 (クロダニューマティクス)
- 〃 八手又秀浩 (日本ピスコ)
- 〃 若原洋行 (TAIYO)

油圧ポンプ・モータ分科会

開催日 12月8日 (月)

出席者

- 主査 馬場賢司 (ボッシュ・レックスロス)
- 委員 中辻 順 (ダイキン)
- 〃 吉成考正 (東京計器)
- 〃 宮田孝弘 (コマツ)
- 〃 平出博一 (油研工業)
- 〃 堺 隆二 (川崎重工業)
- 〃 加藤弘毅 (KYB)
- 〃 三浦恵史 (豊興工業)
- 〃 向井信雄 (島津製作所)
- 〃 小曾戸博 (コンサルタント)

油圧バルブ分科会

開催日 12月11日 (木)

出席者

- 主査 浦井隆宏 (ボッシュ・レックスロス)
- 委員 松田幹人 (川崎重工業)
- 〃 高野一治 (油研工業)
- 〃 加藤靖丈 (豊興工業)
- 〃 安永和敏 (東京計器)
- 〃 野田隆明 (ダイキン工業)
- 〃 森田浩司 (廣瀬バルブ工業)
- 〃 中野 潤 (ナブテスコ)
- 〃 小倉祐二 (不二越)
- 〃 中村雅之 (KYB)
- 〃 小林 剛 (日立建機)

空気圧バルブ分科会

開催日 12月18日(木)  
出席者  
主査 丸山哲郎(SMC)  
委員 河野喜之(甲南電機)  
〃 夏目清辰(CKD)  
〃 齋藤茂明(アズビルTACO)

(技術調査事業)

技術委員会油圧若手技術者懇談会

開催日 12月3日(水)  
出席者  
部会長 伊藤和巳(KYB)  
講師 落合正巳(協立機電)  
アドバイザー 藤谷秀次(JFPS)  
参加者 宮原有基(神威産業)  
〃 山本寛英(川崎重工業)  
〃 小野純一(KYB)  
〃 弘中剛史(KYB)  
〃 松山 悟(KYB)  
〃 中村優太(南武)  
〃 安藤真和(日立建機)  
〃 田邊康伸(廣瀬バルブ工業)  
〃 仙田雅晃(廣瀬バルブ工業)  
〃 濱野貴至(不二越)  
〃 大古 潤(油研工業)

技術委員会水圧部会

開催日 12月4日(木)  
出席者  
部会長 宮川新平(KYB)  
委員 大林義博(KYB)  
〃 井口 務(廣瀬バルブ工業)  
〃 村田秀紀(阪上製作所)  
〃 鳥居良介(阪上製作所)  
〃 志岐英伸(大電)  
〃 村上康裕(村上製作所)  
〃 高橋永治(マルヤマエクセル)  
〃 内田 晃(日本アキュムレータ)

技術委員会空気圧部会

第506回特許分科会  
開催日 12月12日(金)  
出席者  
幹事 赤松直人(甲南電機)  
委員 栗盛宏樹(アズビルTACO)  
〃 井野雅康(SMC)  
〃 出澤 大(クロダニューマティクス)

〃 佐藤 浩(コガネイ)

(広報・PR事業)

編集委員会107回WG  
開催日 12月2日(火)  
出席者  
主査 前畑一英(KYB)  
副委員長 水野純一(CKD)  
委員 大久保俊克(阪上製作所)  
〃 加藤猛美(コガネイ)  
〃 高崎邦彦(TAIYO)  
〃 永井茂和(SMC)  
〃 諸橋 博(東京計器)  
〃 宮坂 篤(油研工業)  
〃 吉村知久(川崎重工業)

(振興対策事業)

シリンダ部会  
開催日 12月17日(水)  
出席者  
部会長 河合 崇(KYB)  
委員 渡辺和功(大垣鐵工所)  
〃 村上博昭(光陽精機)  
〃 尾崎 茂(TAIYO)  
〃 吉富英明(南武)  
〃 増井丈雄(日本シリンダ共同事業)  
〃 福田賢二(堀内機械)  
〃 沢辺 充(三尾製作所)  
〃 師星 光(油研工業)

~~~~~

月間行事概要

~~~~~

<12月>

2日(火)  
・国際委員会  
・編集委員会107回WG  
3日(水)  
・技術(委)油圧若手秘術者懇談会  
4日(木)  
・技術(委)水圧部会  
5日(金)  
・標準化(委)流量測定分科会  
8日(月)  
・ISO(委)ポンプ・モータ分科会  
10日(水)

- ・ ISO (委) 継手・ホース分科会
- 11 日 (木)
  - ・ ISO (委) 油圧バルブ分科会
- 12 日 (金)
  - ・ 技術 (委) 空気圧部会第 506 回特許分科会
- 15 日 (月)
  - ・ ISO (委) 調質機器分科会
- 16 日 (火)
  - ・ 第 17 回政策 (委)
- 17 日 (水)
  - ・ 振興対策 シリンダ部会
- 18 日 (木)
  - ・ 標準化 (委) 空気圧バルブ分科会
- 26 日 (金)
  - ・ 仕事納め

---

☆経済産業省ホームページ

経済産業省の HP では①政策②申請・届出③統計④政策提言⑤情報公開のリンク等から必要な情報が得られます。

<http://www.meti.go.jp/>

☆中小企業庁ホームページ

中小企業庁 HP でも中小企業向け施策に関する多くの情報が得られます。

<http://www.chusho.meti.go.jp/>

---